



迎春



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

年頭の ごあいさつ



一般財団法人秋田県消防協会
会長 中田 潤



平成三〇年の
新春を迎え、県
民の皆様並びに
消防職・団員は
じめ消防関係者
の皆様にごあいさつを申し上
げます。

消防職・団員及び消防関係者の皆
様には、日ごろから地域住民の生
命・財産をあらゆる災害から守るた
め、日夜献身的に活動され、様々な
努力をなされておりますことに心か
ら感謝と敬意を表します。

昨年を振り返ってみますと、七月
二日には秋田市文化会館において
第七〇回秋田県消防大会を開催しま
した。

当日は大雨への対応のため県北部
を中心に欠席した消防団や会場へ向
かう途中引き返した消防団もありま
した。

九月二日には第五四回秋田県消防
操法大会を、これまでの平日開催を

平成二十九年 度全国統一防火標語 火の用心 ことばを形に 習慣に

改め、初めて土曜日に開催しました。
また、九月三〇日には初めての地
方大会として「第二三回全国女性消
防操法大会」を秋田市において開催
しました。



大会当日
は荒れ模様
の天候であ
りましたが
どうにか終
了することが
できました
。予定し
ていたアト
ラクシオン
は中止になり、出演することになっ
ていた県内の女性消防団員には大変
残念な結果となりました。

しかしながら、本大会では初めて
であります前日に開催しました激励
交流会は大変な盛り上がりを見せ、
大会に素晴らしい華を添えました。

なお、秋田県代表として三大会連
続で出場されました「大仙市女性消
防隊」の健闘に敬意を表するもので
あります。

一月一六日には第二三回全国女
性消防団員活性化大会が広島市にお
いて開催され、本県からも一一名の

女性団員が参加しました。
今後の活動に繋げていく大変有意
義な大会でありました。

さて、本県における昨年の災害の
発生状況であります。火災は、皆様
の懸命なるご尽力にも関わらず、多
くの方が尊い命を失っております。

更には、大雨等により建物や農
林・土木施設などに大きな被害をも
たらしました。

こうした中であって、安心・安全
に寄せる地域住民の期待はより大き
くなっており、私たち消防人は、そ
の負託に応えられるよう、なお一層
の精進を重ね
ていく必要が
あると決意を
新たにしてい
るところであ
ります。

団員の減少
のほか、高齢
化やサラリー
マン化の進行
など消防団を
取り巻く厳しい環境の中で、協会と
いたしましては微力ながら、各事業
に全力で取り組んでまいりますの
で、ご支援、ご協力を賜りますよう
お願いいたします。



結びに、県民の皆様並びに消防関
係者のご健勝と、本年が厄災のない
良い年でありますようお願い申し上
げまして、年頭のごあいさつとい
たします。

お願

平成三〇年の 新春を迎えて



秋田県知事
佐竹 敬久



平成三〇年の輝かしい新春を迎え、県内消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、平素から消防活動に精励されておりますことに対し、深く敬意を表します。

さて、昨年も県内外でさまざまな災害が発生しました。昨年七月の九州北部豪雨では、死者四〇名、行方不明者三名、負傷者三五名に及ぶ記録的な被害となりました。

本県においても、七月、八月の豪雨被害があり、各地で家屋の浸水、鉄道や道路の損壊のほか、農作物、農業用施設などに甚大な被害が発生しました。幸いにも人的被害がなかったことは、消防職員や団員の方々の迅速な避難誘導や救助活動の賜物であり、深く感謝申し上げます。

また、住宅等の火災も相次ぎました。八月に横手市で発生した共同住宅の火災では、死者五名、負傷者一〇名を数える大惨事となりました。

さらに、自然災害では台風の上陸や突風被害があり、危機管理事案ではクマの出没に加え、北朝鮮によるミサイルや核開発の脅威、漁船の漂着があるなど多様化する中で、消防機関に寄せられる期待はますます高まってきています。

県としましては、市町村や消防本部など関係機関の皆様と連携し、消防・防災体制や救急救命体制の充実強化とともに、河川改修等を鋭意進めるなど総合的な防災力の強化を推進してまいります。

九月には、地方初開催となる「第二三回全国女性消防操法大会」が、秋田市を会場に開かれました。厳しい気象条件にもかかわらず、選手たちの熱意と消防関係者の皆様の御尽力により、成功裏に終えることができました。この度の大会の盛り上がりや若者や女性団員の増加につなげてみたいと考えております。

結びに、本年が火災や災害のない平穏な一年でありますことと、皆様方の一層の御健勝、御活躍を祈念いたします。年頭のあいさつといたします。

新年の 御挨拶



秋田県議会議長
鶴田 有司



平成三〇年の輝かしい新春を迎え、消防関係者の皆様に謹んで御挨拶を申し上げます。

皆様には、常日頃より防災の最前線にあつて、県民の生命と財産を守るため、昼夜の別なく献身的に御尽力いただいていることに対しまして、県議会を代表して心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、七月、八月の記録的な大雨により河川の氾濫、家屋の浸水、鉄道や道路の損壊などの甚大な被害が発生いたしました。幸いにも、人的な被害がなく、これもひとえに、消防団や自主防災組織などの適切な避難誘導や救助活動など、日頃からの備えと地域の共助の力によるものと感謝申し上げます。

一方で、八月には横手市の共同住宅火災により多くの人命が失われました。近年まれにみる大惨事となる火災であり、防火対策の重要性を再認識させられました。

また、北朝鮮による弾道ミサイルの発射が相次ぎ、男鹿半島沖への落下や日本上空の通過などにより、県民の生命、安全・安心が脅かされた一年でもありました。

そのような中、一〇月には、消防防災ヘリコプター新「なまはげ」が

就航し、優れた機動力に加え、安全・機能面で強化が図られたことから、消防防災活動での活躍に大きな期待を寄せるものであります。

災害は年を追うごとに大規模化・頻発化しており、安全・安心の担い手として、消防の果たす役割はますます大きくなってまいります。消防本部や消防団を中心に、それぞれの地域が主体となった消防防災体制をより一層強化する必要がありますが、人口減少社会にあつて、消防団員の確保は一層困難となつてきております。今後は、学生や女性、OB団員など、さまざまな立場の人が消防団活動に参加する機能別団員制度を大いに活用することによって地域防災力の充実強化に努められることを期待いたします。

皆様におかれましては、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、一層の御精進と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますの御健勝と、本年が災害のない平穏な年でありますことを御祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

年頭の辞



消防庁長官
稲山 博司



平成三〇年の
新春を迎えるに
当たり、謹んで
年頭の御挨拶を
申し上げます。

平素から消防防災活動や消防関係
団体業務などに従事され、地域の安
心・安全の確保に御尽力いただいた
全国の消防関係者の皆様に、心から
感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、七月の九
州北部豪雨をはじめ、台風や集中豪
雨による自然災害が多発した他、平
成二八年末の糸魚川市での火災に続
き、二月の埼玉県内の大型倉庫火災
等の大規模な火災も発生しました。
それぞれの現場において、献身的な
活動に携わっていただいた消防職
員、消防団員の皆様には、心から敬
意を表します。

また、三月に長野県内で発生した
消防防災ヘリコプター墜落事故によ
り、前途有為な多くの隊員を失った
ことは我が国の消防にとって大きな
損失であり、ヘリコプター運行の安
全性向上等、消防職団員の活動時の
安全確保は益々重要であると認識し
ています。

八月から九月にかけては、北朝鮮
から発射された弾道ミサイルが二度
にわたり我が国の上空を通過する事
態が発生した際に、Jアラートによ
る情報伝達が行われました。

このように、国民の安心・安全を

脅かす災害は従前にも増して複雑多
様化しており、消防庁では、今後の
大規模災害に備えるとともに、様々
な災害に対応できるよう、緊急消防
援助隊及び常備消防力の充実強化は
もとより、地域防災力の中核となる
消防団及び自主防災組織等の充実強
化、火災予防対策の推進、消防防災
分野における女性の活躍推進、Jア
ラートも含めた防災情報の伝達体制
の整備等に取り組んでまいります。

あわせて、国家的な大規模イベン
ト開催時における危機管理体制の充
実にも引き続き計画的に推進してま
いります

また、東日本大震災等の被災地で
は、依然として厳しい状況の中で消
防防災活動を強いられている消防本
部もあります。被災地における消防
防災体制の充実強化につきましても
引き続き推進してまいります。

本年は、昭和二十三年三月七日に消
防組織法が施行され、市町村消防の
原則に基づく今日の自治体消防制度
が確立して以来七〇周年を迎える記
念すべき年です。全国の消防関係者
の方々と力を合わせ、国民の安心・
安全な生活を確保するという消防に
課せられた使命の重要性を再認識
し、更なる消防防災・危機管理体制
の充実強化を図ってまいります。

皆様方におかれましては、我が国
の消防防災・危機管理体制の更なる
発展と、国民が安心して暮らせる安

全な地域づくりのために、より一層
の御支援と御協力を賜りますようお
願い申し上げます。
皆様の益々の御健勝と御発展を祈
念いたしましたして、年頭の挨拶とさせ
ていただきます。

消防制度七〇年代の スタートに当たって



公益財団法人日本消防協会
会長 秋本 敏文



明けましてお
めでとうござい
ます。新年のお
よろこびを申し
あげますととも

に、今年が無事平穏でよい年であり
ますよう心からお祈り申しあげま
す。また、昨年九月、秋田市におい
て開催した全国女性消防操法大会
は、初の地方開催でしたが、成功裏
に終わることができました。大会運
営等にご尽力頂いた秋田県の皆様に
深く感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から間もなく
七年となりますが、この間も実にさ
まざまな火災、自然災害が発生して
おります。そのなかで、東日本大震
災の経験から成立した「消防団を中
核とした地域防災力の充実強化に関
する法律」の趣旨に沿った地域の消
防防災体制の強化が益々重要となっ

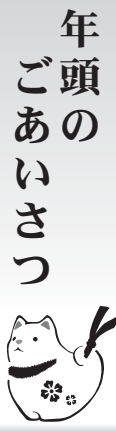
ています。
これは、常備消防との緊密な連携
のもと、地域にあつては消防団が中
心となりながら、地域の総力を結集
して、どんな災害があつても生命を
守り抜くことができる体制づくりを
めざしているものであり、それぞれ
の地域における具体的な動きが益々
大事になります。

今年、第二次大戦後に制定され
た現在の自治体消防制度が七〇周年
を迎えますが、我が国消防は、いろ
いろな面で大きな変化に直面してい
ます。大雨の増加など災害の様相が
変化しています。また、社会環境も、
人口減少、少子高齢化、雇用者など
増加、地域コミュニティの変容など
変化が見られます。消防に求められ
る活動も拡大してきました。簡単に
はいい尽くせない大きな変化がいろ
いろな面で進んでおり、消防は、こ
れらの変化を真正面から受け止めな
がら、地域の皆さんの安全確保に貢
献することができると新たな時代の消
防体制づくりを進めなければなりま
せん。

私たちにとつて大きな課題である
日本消防会館の改築については、関
係の皆様のご意見をうかがいなが
ら、日本消防の新たな発展に貢献で
きるものをめざして、新会館の建設
実現に努力します。

消防の使命は益々重大になり、ご
苦勞も多いと思いますが、秋田県消

防の皆様のお元氣な御活躍をお祈り申しあげて新年のごあいさつといたします。



年頭のごあいさつ

秋田県市長会会長
秋田市長
穂積 志



全県消防関係者の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様おかれましては、地域において人々の命を守るため、日々鍛錬を重ねておられますことに心から敬意を表します。

さて、東日本大震災や広島島の土砂災害、岩泉町のグループホームを襲った洪水、そして、熊本地震、列島を襲う大型の台風など、多くの人命が失われる自然災害が近年多発しております。

わが秋田県においても、昨年七月二二日の豪雨に伴う洪水や土砂崩れにより、家屋や農地、道路などに甚大な被害が発生いたしました。災害の規模にもかかわらず一名の犠牲者も出なかつたことは、消防職員ならびに消防団員の皆様の災害現場でのご尽力と、日頃からの防災活動などが実を結んだものと考えております。

また、毎年多くの観客を楽しませてくれる大曲の全国花火大会が、洪水直後にも関わらず予定どおり開催できたのも、消防団員の懸命の復旧活動があつたのことに伺い、大変頼もしく感じたところであります。

現在、地方とりわけ秋田県においては、人口減少や高齢化、過疎化、そして道路・橋梁などのインフラの老朽化、さらには消防団員のなり手不足など、大規模災害が発生した際の懸念材料が数多くあります。

こうした課題の解決に向け、私どもも鋭意努力してまいりますので、市民の安全・安心な生活を守るため、引き続き、皆様からも日々の防災活動や地域の防災意識の高揚などでお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに消防職員ならびに消防団員の皆様、関係各位のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

平成三〇年の新春を迎えて



秋田県消防長会
会長 佐藤 好幸



平成三〇年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年の

お慶びを申し上げます。

皆様には、日頃から各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに、改めまして心から感謝と敬意を表します。

昨年の消防長会各種事業におきましては、開催地の消防関係者の皆様から特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の災害状況を振り返ってみますと、風水害が多い一年でありました。秋田県においても七月と八月の二回にわたり大雨災害に見舞われ、特に七月二二、二三日に降り続いた雨は観測史上最大の二四時間雨量を記録し、各地で避難指示や勧告が発令される状況となりました。

国内においても、七月に、福岡県を中心とした九州北部豪雨により、広い範囲での建物倒壊や土砂災害が発生し、多くの尊い人命と財産が失われたところであります。災害の種類を問わず、消防には、管轄地域はもちろん県内の広域応援や、時には全国各地の災害への対応も期待されております。秋田県におきまして、県内における地域ブロック化や応援隊の事前登録など、迅速な出動や応援体制の構築と、より効果的な緊急消防援助隊との連携を目的として、広域消防相互応援協定を見直し、広域災害対応能力の一層の向上を図つ

たところであります。

一方、九月には、第二三回全国女性消防操法大会が初の地方大会として秋田市で開催され、荒天にもかかわらず、約五千人の参観者や関係者のもと、無事、成功裏に終了いたしました。全国レベルの技術を目的の当りにできたことと同じ目的を持つ隊員が一堂に会し交流できたことは、大きな財産となったところであります。地域の団員の皆様におかれましては、引き続き、自主防災組織などとの連携も一層強固にしながら、地域防災力の中核として、ご尽力いただきたいと思います。

今後、本県においては、人口減少や超高齢化を背景に、高齢者等災害弱者の増加はより顕著なものとなっております。消防行政は災害の未然防止、人命の安全確保などの目的を達成するため、これら社会環境の変化に応じたきめ細かな対応が求められており、地域社会における役割はさらに増大してまいります。

従いまして、行政の高度化、専門化に対応できる消防、防災のエキスパートとして、より一層資質の向上を図るべく取り組みを推進してまいります。

結びに、皆様方の益々のご健勝とご多幸、そして本年が平穏な一年であることを祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

自主防災組織との連携について討議

平成二九年度 全県消防団長研修会



佐藤薫主査

「地域劇団と連携した消防団
PR動画制作」
発表者：湯沢市総務課総合防災室
総合防災班主査 佐藤 薫

活動事例

平成二九年度全県消防団長研修会が二月一日(金)午後二時から、秋田市中通「イヤタカ」で消防団長など消防関係者約六〇名が参加し、開催されました。
研修会では、湯沢市総務課総合防災室による活動事例の発表、そして、「消防団と自主防災組織の連携のあり方」をテーマに課題討議・意見交換を行いました。

課題討議・意見交換

テーマ 『消防団と自主防災組織の連携のあり方』

① 自主防災組織の秋田県の現状

報告者：秋田県総務部総合防災課

主幹 高橋 清泰

■発表の内容

○ 自主防災組織とは(目的など)

○ 事例(阪神淡路大震災)等



高橋主幹

② 活動報告「過去の災害から学ぶ」

報告者：旭南地区自主防災組合

連合会(秋田市)

代表 佐々木 久左工門氏

■報告の内容

○ 避難所運営マニュアル作成

○ 避難所開設・運営訓練の実施

○ 三地区(旭北、旭南・茨島、川尻)交流防災大会

○ 水害への備え「タイムライン」



活動報告 佐々木氏

③ 講演

『消防団と自主防災組織との連携のあり方について』

講師：東北福祉大学

兼任講師 後藤 一蔵氏

■講演の内容

○ 「白馬」の奇跡⇨隣保共助

○ 災害不安列島、集中豪雨の増加

○ 新法、ユイのこころ

○ 東日本大震災 等



講師の後藤氏



八峰町消防団
本多 団長

⑦消防団と自主防災組織の連携、その活動状況について

なお、講演終了後に県内消防団の実情について各消防団長から次のおり報告がありました。



松本主幹

課題討議・意見交換の進行は、秋田県総合防災課 松本勉主幹が担当しました。



平成29年度全県消防団長研修会

①七月の大雨による災害時の活動状況について



横手市大森消防団
菊池 団長



大館市消防団
齋藤 団長

②消防団防災リーダーについて

雪害対策

Ⅱ屋根の雪下ろしのチェックポイントⅡ

- 一 作業は、家族、隣近所にも声かけて二人以上で行いましょう。
- 二 命綱を確実に付け、滑りにくい履き物、ヘルメットを着用しましょう。
- 三 携帯電話も忘れずに携帯しましょう。
- 四 屋根にかけたハシゴは、ふらつかないように、しっかりと固定しましょう。
- 五 屋根下に人はいませんか？
特にお年寄りや子どもに十分注意しながら作業しましょう。
- 六 雪を下ろすとき、軒先から下ろしていませんか？
非常に危険です。上の方から下ろしていきましょう。

- 七 建物の周りに雪を残して、雪下ろしをしましょう。
- 八 晴れの日は屋根の雪がゆるんでいます。
- 九 晴れの日はほど要注意です。
- 十 低い屋根でも油断は禁物です。
- 十一 雪下ろし開始直後と疲れたころは特に慎重に作業しましょう。

- Ⅱ除雪機使用時のチェックポイントⅡ
- 一 マフラーなど機械に巻き込まれやすい服装で、作業はしないで下さい。
- 二 除雪機に詰まった雪を取り除く際、ケガの原因となるので、確実にエンジンを切ってから雪を取り除いて下さい。

旗ヶ原 旗ヶ原 旗ヶ原
旗ヶ原 旗ヶ原 旗ヶ原
旗ヶ原 旗ヶ原 旗ヶ原
旗ヶ原 旗ヶ原 旗ヶ原

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
 - モリタ自動車ポンプ
 - ジェットホース
 - 消防被服全般
 - 火災報知器各種
 - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

消防団員入団促進 キャンペーン実施中

— 一月から三月まで —

消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三十一年には三六、〇〇〇人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平成二十九年には半数を割り込み約一六、九〇〇人となっており、地域における消防防災力の低下が懸念されています。

入団促進重点推進事項

(一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の七〇％超が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっており、より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進めていく必要があります。

(二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成二十九年、三九一名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動など多岐にわたっています。

(三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題となっています。大学生等(専門学校生

を含む)の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。本県では、六五人(平成二十九年四月一日現在)の大学生等が消防団で活躍しています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。

仕事終わりに
いってきます
街を守りに



あなたの想いが、この街を守るエネルギーになる。

消防団員募集

SYOBODAN

消防団員募集

消防団に関する詳しい情報は 消防団 検索 <http://www.fdma.go.jp/syobodan/>

消防団員募集の手続きなどについては、各消防団にご確認ください。募集要項またはお問い合わせ先は、各消防団にお問い合わせください。

消防省消防庁
消防団を募集します！

消防省消防庁
消防団を募集します！

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

